

9. 思春期の顎関節症に対する矯正治療の導入についての試み

○住 和代, 旭爪 伸二, 大野 秀夫,
塩野 幸一, 森主 宜延, 小椋 正
(鹿大・歯・小児)

当講座では、顎関節症は、筋の活動性の亢進により発症し、その主な誘因として咬合の不調和を指示し、splint 療法と矯正処置を中心に治療を行っている。この点については、第 1 回の本学会において発表した。

しかし、顎関節症の治療法としての矯正治療は、顎口腔系における機能障害が存在するため、逆に顎関節症を増悪させる傾向があるとも考えられ、今後、十分な検討が必要である。なお、顎関節症と矯正治療との関係については、過去の報告から、矯正治療が顎関節症の誘因として位置づけられており、治療法として導入を試み、検討されている報告は少ない。

そこで、演者らは、顎関節症における矯正処置による治療法の整備を目的とし、full band 法に基づく処置をほどこした顎関節症 2 症例について検討を加えた。その結果治療法としての矯正処置の妥当性を問える知見を得たので報告する。